



まちのあしあと

kikkoman park (キッコーマン パーク)

東木 宏樹 (とうぼく ひろき)

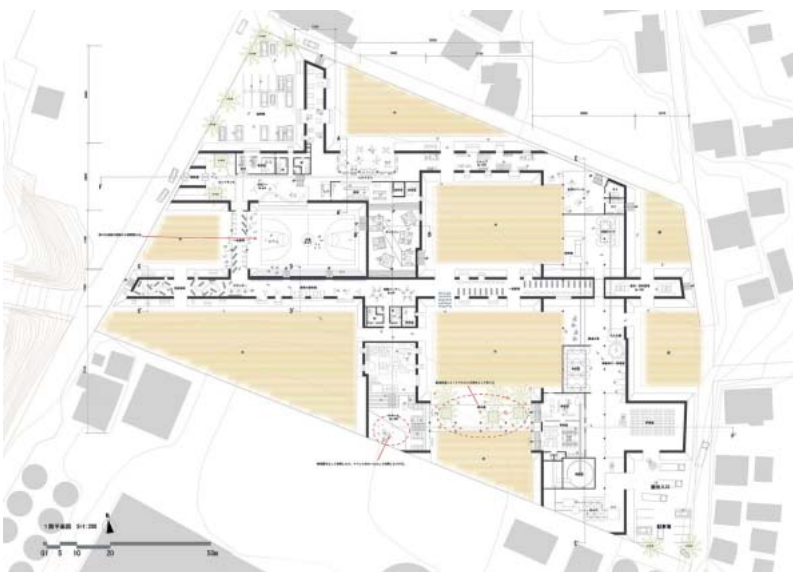
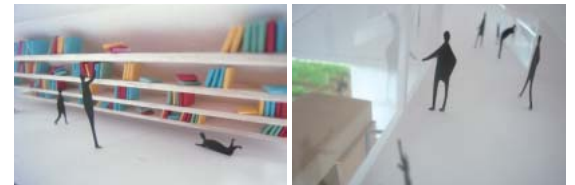
東京電機大学 工学部 建築学科



町に暮らしていながらその町のことを知らない。日々少しずつ変化していく町の様相を容易に受け入れ、そこに何があったのか忘れてしまう。

過去を土台に生きている私たちを包んでいる町の過去を知ったとき、この町に住んでよかった、そう思えるような空間をつくりたい。

敷地は千葉県野田市。キッコーマンの企業城下町としての特徴をもち、壁を張り巡らし点在する閉じた工場。歴史を語る農地や森を食いつぶし新たな歴史を歩んだ工場もまた、ある日突然動かなくなり最後には町の特徴すらも失う。消えていく農工業がもつ可能性。工場跡地が人々の拠り所となる可能性。これらを用いて、過去の歴史とこれからの歴史を紡ぎ合わせる農工業体験、生産施設と町の拠り所となる公共施設を提案する



講評 「風景の記憶と物語の継承」最初に作品から受けた印象である。敷地は醤油産業で発達してきた千葉県野田市。周囲は川に囲まれたのどかな風景で現在でも町並みに懐かしい風情が残っている。この場所で作者が考えたのが「五感で感じる」ということである。醤油の原材料である大豆の栽培・収穫、工場における加工・生産といった工程、そうして出来上がった醤油を食するレストランや販売コーナーなどを複合した体験型テーマパークの提案である。この場所にふさわしい「建築も含めた風景に対してのイメージ」が明快で、畑での農作業の風景と川沿いで子ども達が遊ぶ風景など、懐かしさと共に楽しい場が想像できる。さらに欲を言えば、建築化された風景が周辺につながっていくような、そんなのびやかさがあればより魅力的な提案になったのではないかと思う作品である。

(審査員：中野 正也)